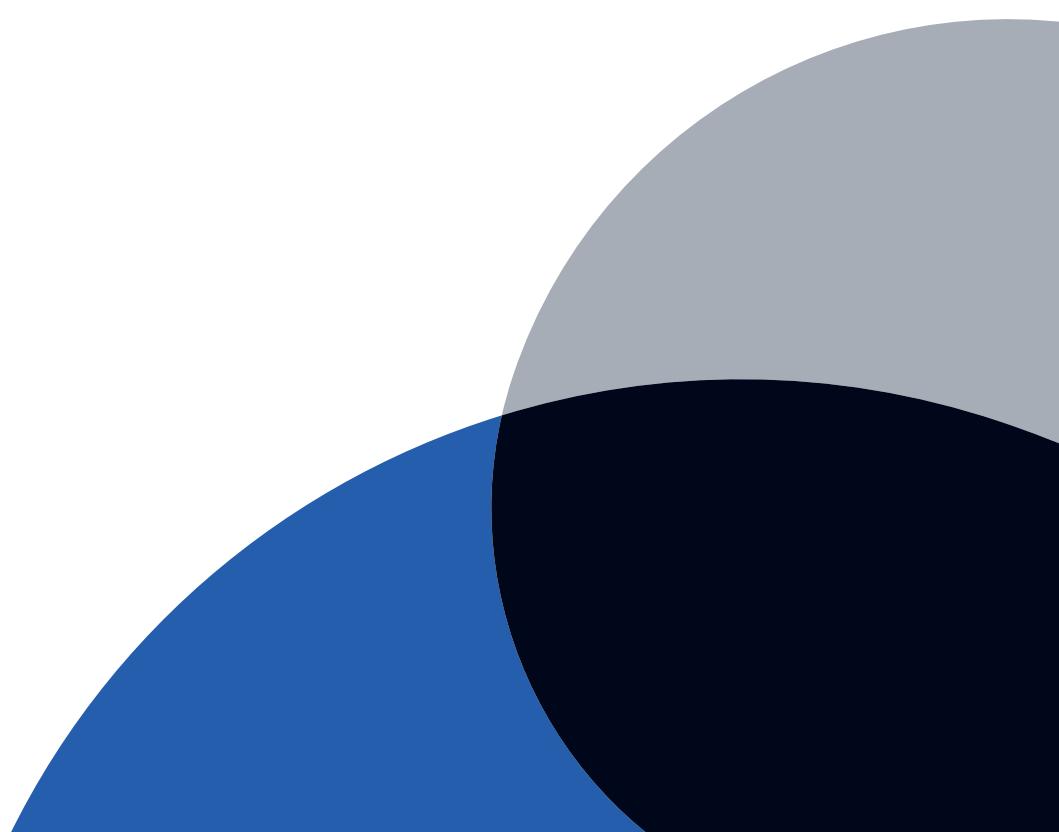




第13期上半期 2009年1月1日～2009年6月30日

SIOS Report Vol.6



Software for Innovative Open Solutions

私たちは、夢溢れるソフトウェアテクノロジーで
価値を創造し、社会の発展に貢献します。



代表取締役社長
喜多 伸夫

株主・投資家の皆様へ

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第13期上半期（2009年1月1日～2009年6月30日）の「SIOS Report Vol.6」を皆様にお届けし、同期間の業績のご報告とともに、今後の見通し等につきましてご説明申し上げます。

当上半期のポイント

■売上高 2,854百万円（前年同期比 1.7%減）

- ▶国内の「LifeKeeper」⁽¹⁾は、前年同期に対して増収継続
- ▶「SIOS Integration for Google Apps」⁽²⁾は、大幅に伸長
- ▶米国子会社SteelEye社は、世界経済の影響で苦戦
- ▶ドル安影響が円換算後の海外売上高を押し下げ

■経常利益 40百万円（前年同期は△78百万円）

EBITDA 215百万円（前年同期比 120.5%増）

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- ▶中長期成長に向けた研究開発を継続する一方で、外部委託費等のコスト削減に努め、利益改善

以上により、当上半期の業績は、次頁の財務ハイライトに記載する結果となりました。

当上半期の事業環境は、企業の情報化投資が縮小する厳しい状況でしたが、オープンソースソフトウェア⁽³⁾（OSS）を利用したコスト削減に関する企業の底堅い情報化投資や、クラウドコンピューティング⁽⁴⁾への関心が高まりを見せ始めました。このような背景を追い風と認識し、引き続き、中期経営目標に向かって邁進する所存でございます。

今後とも、より一層のご指導ご鞭撻をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

目次

株主・投資家の皆様へ	1
財務ハイライト	2
中期事業戦略の推進状況	3
TOPIC	4、5、6
要約連結財務諸表	7、8
事業概況(連結)	9
会社概要/株式の状況	10

(1) SteelEye社の開発製品。本番稼働のサーバーとは別に、同じ環境の予備サーバーを待機させ、万が一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担うHA（ハイアベイラビリティ）クラスターソフトウェア。

(2) Googleが提供する、メール、インスタントメッセージ、スケジュール管理、ワープロ、表計算等をパッケージにしたホスティング型アプリケーションサービスGoogle AppsTMとお客様の既存の情報システムを直接連携させるサービス。

(3) ソフトウェアの設計図にあたるソースコードを無償で公開し、使用・改良・再配布ができるソフトウェア。

(4) コンピュータ処理をネットワーク（通常はインターネット）経由で、サービスとして利用できる新しいコンピュータの利用形態。

※文中に記載の会社名および製品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

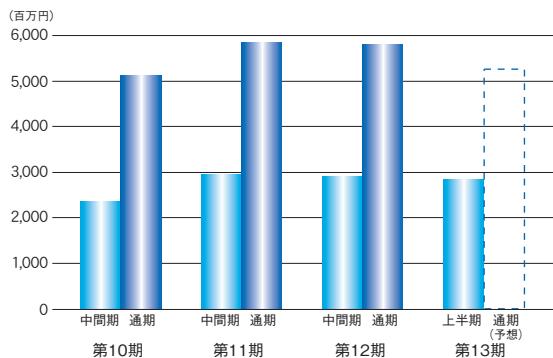
財務ハイライト

(単位：百万円)

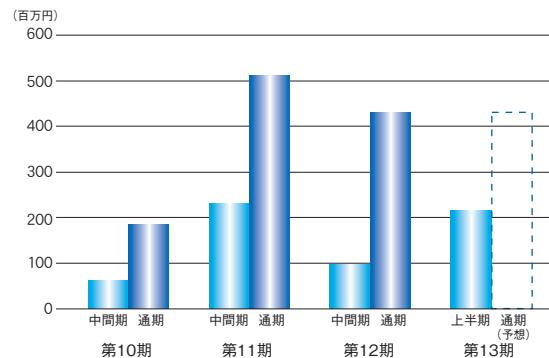
	第10期		第11期		第12期		第13期	
	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	上半期	通期(予想)
売上高	2,375	5,125	2,956	5,851	2,904	5,815	2,854	5,250
経常利益(△損失)	47	△ 16	30	137	△ 78	74	40	50
当期純損失(△)	△ 31	△ 184	△ 65	△ 51	△ 116	△ 101	△ 19	△ 50
EBITDA*	61	184	231	511	97	429	215	430
総資産	4,859	5,551	5,591	5,556	5,289	4,985	4,730	—
純資産	1,813	2,713	2,667	2,567	2,363	2,187	2,180	—
1株当たり当期純損失(△) (円)	△ 412	△ 2,249	△ 741	△ 581	△ 1,314	△ 1,140	△ 224	△ 576
1株当たり純資産 (円)	23,370	30,577	30,057	28,747	26,634	24,413	24,835	—
社員数 (名)	199	188	187	180	201	184	189	—

*EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

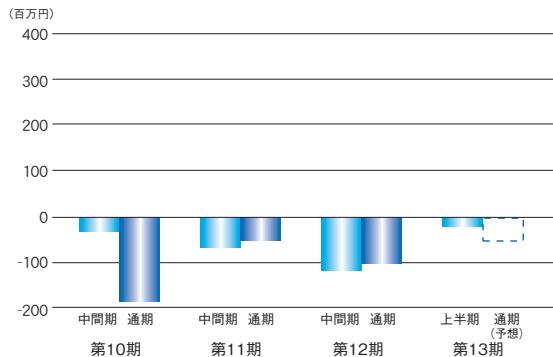
売上高



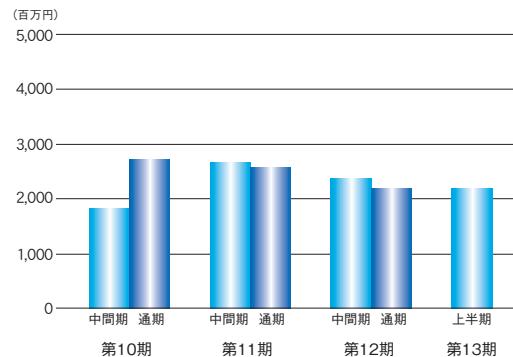
EBITDA



当期純損失



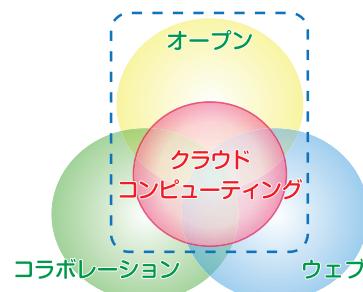
純資産



『クラウドコンピューティング』と『オープン』をより一層強化

当社は、中期事業戦略におけるテクノロジー強化領域として、オープンソースソフトウェア (OSS) を中心とした「オープン」、インターネットの発展と共に大きく市場が拡大している「ウェブ」、人やシステムの連携による「コラボレーション」の3軸に昨今大きな潮流になりつつある「クラウドコンピューティング」の領域を追加したビジネスを展開しています。

その中でも、下半期以降においては、特に「クラウドコンピューティング」分野と「オープン」分野をより一層強化した展開を図ります。



▶ 『クラウドコンピューティング』

■なぜ『クラウドコンピューティング』なのか？

●高い市場成長性

⇒企業情報システムの利便性の向上、情報管理リスクの軽減、運用コストの改善のメリットが大きく、「情報システムは、所有する環境から利用する環境」へと急速に変化しつつあります。国内法人向けクラウドコンピューティング市場は、2012年に1兆円超になると推測しています。

●当社の技術力の強みを活かした展開

⇒当社は、2006年から、クラウドコンピューティング関連サービス「SIOS Integration for Google Apps」を展開しており、これまでに獲得したユーザー数（大学や民間企業のユーザー）は、当上半期までの累積で20万人を突破しました。また、当社の技術力の強みを活かし、Java対応のGoogle App EngineTM(*)⁽⁵⁾上で稼動するビジネスアプリケーションを業界に先駆けて実用化することができました。

▶ 『オープン』

■なぜ『オープン』なのか？

●OSSの重要性

⇒多くの企業は、目まぐるしく変化する多様な選択肢の狭間で「何が最適なシステムなのか?」「最適なIT投資はどうすれば実現するか?」といった経営課題に直面しています。OSSは、コスト削減や開発スピード向上等の効果を発揮するため、その存在感は日増しに高まっています。また、クラウドコンピューティング分野においても重要な役割を担っています。

●当社の位置付け

⇒上記のような背景の下、当社は、創業以来培ってきたLinuxに代表されるOSS分野のノウハウにより、多くの顧客企業をサポートしてまいりました。この実績を活かし、当下半期からOSSビジネスをさらに拡大し、「OSSワンストップソリューション（5頁にて詳述）」の提供を開始しました。

(*) Googleが提供するWebアプリケーションプラットフォームで、Googleアプリケーションを実行しているのと同じ拡張性の高いシステムでWebアプリケーションを構築できる。

新サービスのご紹介 Google App Engine Solution

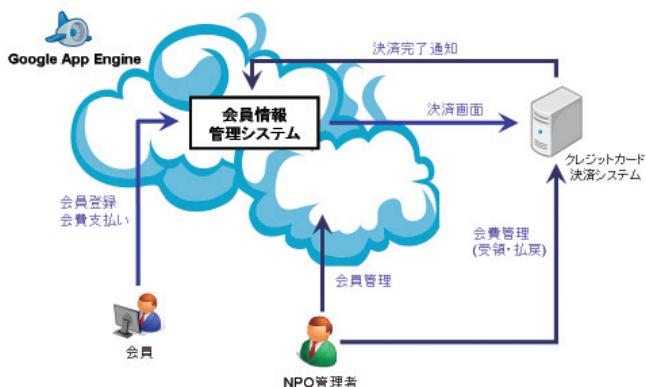
Java対応のGoogle App Engine上で稼動する ビジネスアプリケーションを業界に先駆けて実用化

当社は、Googleがクラウド環境で提供するWebアプリケーションプラットフォームであるGoogle App Engine (GAE) 上で動作するJavaアプリケーションの受託開発をはじめ、技術コンサルティング、保守サービスなど業界に先駆けて提供しています。

開発事例

NPO法人 Seasarファウンデーション 様 「会員情報管理システム」

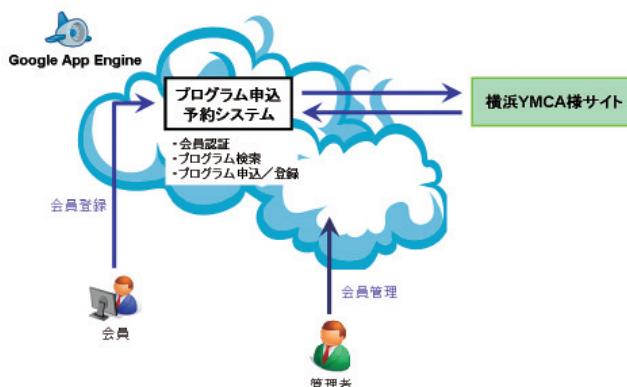
入会受付から、会員情報の管理、会費支払い、決済までの機能を提供するシステムです。GAE上で稼動するアプリケーションは、サーバーを維持管理する必要がなく、またトラフィック⁽⁶⁾やデータストレージ⁽⁷⁾の増大に合わせて容易に拡張でき、インフラの過大投資を抑制できます。



■システム構成図

横浜YMCA 様 「プログラム申込予約システム」

日本オフィス・システム株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役会長 尾崎 高）と共同で一時的なアクセス過多による高負荷対応を目的に構築しました。プログラム予約受付初日に会員の集中的アクセスでサーバーに負荷がかかり、システムが一時的に停止するという従来の問題が解決できるようになりました。また、今後もアクセスの集中するピーク時の対応として継続して利用することが可能となります。



■システム構成図

(6) ネットワーク上を移動する音声や文書、画像などのデジタルデータ、またはそれらのデータ情報量のこと。

(7) データやプログラムを記憶する装置。

新サービスのご紹介 OSSワンストップソリューション

オープンソースソフトウェアの活用によるコスト削減を総合的に支援

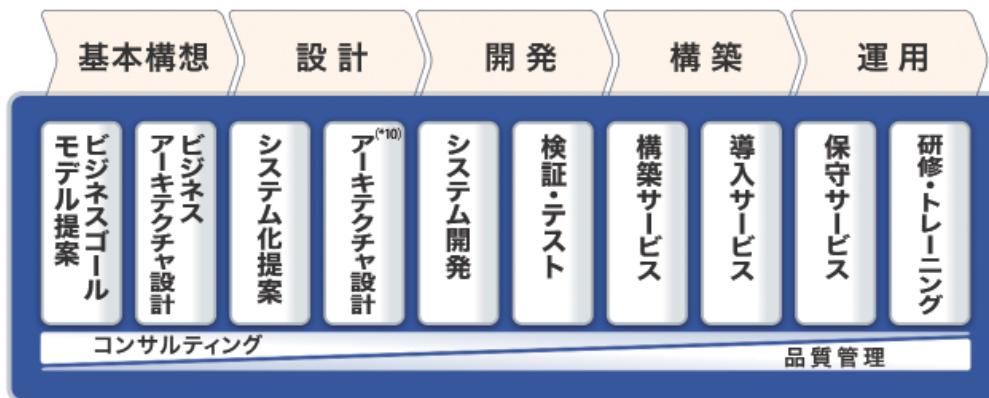
当社は、7月1日、オープンソースソフトウェア(OSS)を活用した企業システム構築におけるコンサルティングから開発、構築、保守サポートまでワンストップで提供し、経営コストの削減を総合的に支援するサービス「OSSワンストップソリューション」の提供を開始しました。

当社は、創業以来一貫してOSSの導入・活用・支援に取り組んでいます。これまでに培ったLinux OSサポート、アプリケーションサーバー⁽⁸⁾、仮想化⁽⁹⁾などのOSSに関するノウハウに加え、新たにデータベース分野を強化し、OSSに関するサービス範囲をより大きく広げたことにより、様々な顧客企業のニーズに対応し、OSSならびに商用ソフトウェア(プロプライエタリ・ソフトウェア)の各コンポーネントを適材適所で組み合わせ、それらの混在環境

における最適なシステムやソリューションをワンストップで実現します。

これにより、企業は、IT投資コストにとどまらず、企画面や運用面を含めた経営コストを合理的に削減することができます。また、基本構想から運用に至るまでを一括してサービス提供するため、企業は安心してOSSを活用したシステムを導入することができ、効率的な運用が可能となります。

OSSワンストップソリューションの体系



(8) ユーザーからの要求を受け付けて、データベースなどの業務システムの処理に橋渡しする機能を持ったサーバーソフトウェア。ミドルウェアの一種。

(9) ひとつのハードウェアを、あたかも複数のハードウェアであるかのように論理的に分割し、それぞれに別のOSやアプリケーションを利用できる状態を作り出す技術。

(10) ハードウェア、OS、ネットワーク、アプリケーションソフトなどの基本概念。

新製品のご紹介 DataKeeper

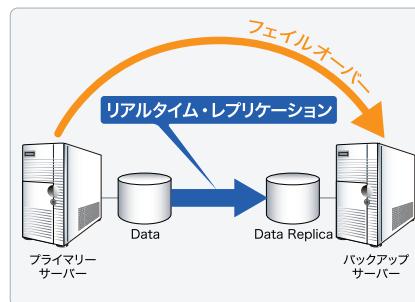
低価格のデータレプリケーション製品「DataKeeper」を販売開始

当社は、低価格でデータレプリケーション機能⁽¹¹⁾を提供する新製品「DataKeeper for Windows Cluster Edition」の販売を開始しました。企業は、高価な共有ディスクを使用せずとも、低価格でシステムの早期再開、復旧が可能となります。

システムの災害対策など、事業継続に関する事項は企業の経営課題のひとつとなっていますが、その対応策となるシステムの導入にはコストのかかるものが多いのが現状です。

当社が誇る「DataKeeper for Windows Cluster Edition」により、システムダウンによる企業損失を最小限にとどめ、企業の求める高レベルのサービスと信頼性の継続を低価格で実現します。より有効な災害対策ソリューションとして遠隔地へデータを分散するフェイルオーバー⁽¹²⁾を付加することも可能です。

また、あわせて、データレプリケーション機能に特化した「DataKeeper for Windows Standard Edition」も販売を開始し、より企業のニーズに合わせたソリューションを提供してまいります。



ニュース 中国現地法人設立を決定

中国現地法人設立によりアジア展開強化 ～アジア圏への本格進出によりグローバル展開を加速～

当社は、中国北京市に現地法人を設立し、アジア市場に対し、米国子会社SteelEye社の製品である「LifeKeeper」をはじめとする当社グループの製品販売やサービス提供を本格的に拡大してまいります。



■設立する現地法人の概要 (予定)

- (1) 商号：赛欧思（北京）科技有限公司
(英語名) SIOS (Beijing) Technology, Inc.
- (2) 代表者：董事長 郷坪 智史 総経理 平松 祐樹
- (3) 所在地：北京市海淀区
- (4) 設立時期：2009年11月
- (5) 資本金：50万元
- (6) 出資比率：当社 100%

(11) データの複製を別の場所にリアルタイムに保存することを共有ディスク不要で実現する機能。

(12) サーバーに障害が発生した場合に、代替サーバーが処理やデータを引き継ぐ機能。

連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度末 2008年12月31日	当第2四半期 連結会計期間末 2009年6月30日
資産の部		
流動資産	3,649,926	3,454,553
現金及び預金	1,276,530	1,757,391
受取手形及び売掛金	746,066	580,438
有価証券	108,653	—
商品	6,484	1,203
原材料	141	—
仕掛品	18,621	36,178
繰延税金資産	13,309	11,082
前渡金	1,315,006	960,935
その他	166,491	107,421
貸倒引当金	△ 1,379	△ 97
固定資産	1,335,483	1,275,936
有形固定資産	108,410	116,314
無形固定資産	971,519	914,707
投資その他の資産	255,553	244,914
資産合計	4,985,409	4,730,489

(単位:千円)

	前連結会計年度末 2008年12月31日	当第2四半期 連結会計期間末 2009年6月30日
負債の部		
流動負債	2,386,590	2,182,768
買掛金	102,800	167,104
1年内返済予定の長期借入金	250,000	250,000
未払法人税等	89,159	77,379
前受金	1,718,073	1,500,886
その他	226,556	187,397
固定負債	411,570	366,966
長期借入金	375,000	250,000
退職給付引当金	36,570	57,719
その他	—	59,246
負債合計	2,798,161	2,549,734
純資産の部		
株主資本	2,451,423	2,390,167
資本金	1,481,520	1,481,520
資本剰余金	861,305	861,305
利益剰余金	116,049	96,337
自己株式	△ 7,450	△ 48,995
評価・換算差額等	△ 294,892	△ 236,838
新株予約権	20,979	19,145
少数株主持分	9,737	8,281
純資産合計	2,187,248	2,180,755
負債純資産合計	4,985,409	4,730,489

【連結貸借対照表】

流動資産

現金及び預金の増加、受取手形及び売掛金、有価証券、前渡金の減少等により、3,454百万円（前期末比195百万円減）となりました。

固定資産

のれん償却等により、1,275百万円（同59百万円減）となりました。

流動負債

前受金の減少等により、2,182百万円（同203百万円減）となりました。

固定負債

長期借入金の減少等により、366百万円（同44百万円減）となりました。

連結損益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 自 2008年 1月 1日 至 2008年6月30日	当第2四半期累計期間 自 2009年 1月 1日 至 2009年6月30日
売上高	2,904,304	2,854,500
売上原価	1,795,680	1,742,583
売上総利益	1,108,624	1,111,917
販売費及び一般管理費	1,197,099	1,068,732
営業利益(△損失)	△ 88,474	43,185
営業外収益	18,328	5,394
営業外費用	7,963	7,998
経常利益(△損失)	△ 78,109	40,582
特別利益	9,190	3,180
特別損失	—	2,206
税金等調整前当期純利益(△損失)	△ 68,919	41,556
法人税、住民税及び事業税	26,796	60,496
法人税等調整額	20,288	2,227
少数株主利益(△損失)	666	△ 1,456
当期純損失(△)	△ 116,671	△ 19,711

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 自 2008年 1月 1日 至 2008年6月30日	当第2四半期累計期間 自 2009年 1月 1日 至 2009年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	326,913	535,320
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 276,855	87,721
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 125,239	△ 174,272
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 33,821	23,439
現金及び現金同等物の増減額	△ 109,003	472,208
現金及び現金同等物の期首残高	1,251,435	1,285,183
現金及び現金同等物の期末残高	1,142,432	1,757,391

【連結キャッシュ・フロー計算書】

営業活動によるキャッシュ・フロー

前渡金の減少354百万円、売上債権の減少171百万円等の増加要因がありましたが、前受金の減少229百万円、法人税等の支払82百万円等の減少要因がありましたので、営業活動による資金の獲得は535百万円となりました。

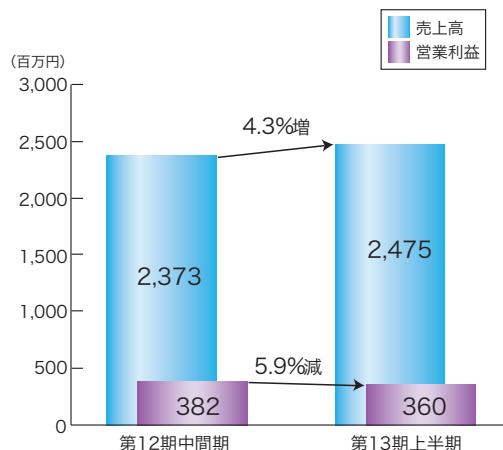
投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の払戻による収入100百万円等により投資活動による資金の獲得は87百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出125百万円、自己株式の取得による支出41百万円等により財務活動による資金の使用は174百万円となりました。

■ オープンシステム基盤事業



売上高 2,475百万円 (前年同期比4.3%増)

[国内]

- ・重点製品の「LifeKeeper」は堅調
- ・OSSによるコスト削減ニーズは底堅く、「Red Hat Enterprise Linux」等も堅調

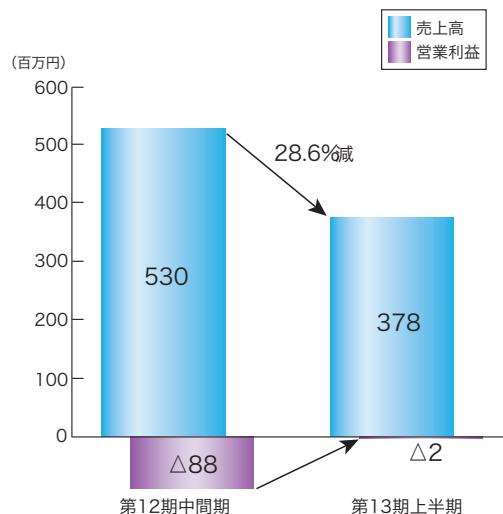
[米国]

- ・SteelEye社は、世界経済の影響により苦戦

営業利益 360百万円 (同5.9%減)

- ・SteelEye社の減収により利益率が低下したが、原価、販管費の削減により連結では影響軽減

■ Webアプリケーション事業



売上高 378百万円 (前年同期比28.6%減)

- ・重点サービス「SIOS Integration for Google Apps」は前年同期比で大幅伸長
- ・Webアプリケーション製品販売および受託開発分野は苦戦

営業利益 Δ2百万円 (前年同期はΔ88百万円)

- ・受託開発案件のコスト管理を徹底
- ・「SIOS Integration for Google Apps」等が好影響
- ・中長期成長に向けて、クラウドコンピューティング分野への研究開発を強化

会社概要

会社名	サイオテクノロジー株式会社 (英語表記：SIOS Technology, Inc.)																
本社住所	東京都港区虎ノ門四丁目1番28号 虎ノ門タワーズ																
設立	1997年5月23日																
資本金	1,481百万円																
社員数	連結 189名 個別 138名																
役員	<table> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>喜多伸夫</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>郷坪智史</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>田中修</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>福田敬</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>藤枝純教</td> </tr> <tr> <td>常勤監査役</td> <td>飯田政治</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>古畑克巳</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>若松康博</td> </tr> </table>	代表取締役社長	喜多伸夫	取締役	郷坪智史	取締役	田中修	取締役	福田敬	取締役	藤枝純教	常勤監査役	飯田政治	監査役	古畑克巳	監査役	若松康博
代表取締役社長	喜多伸夫																
取締役	郷坪智史																
取締役	田中修																
取締役	福田敬																
取締役	藤枝純教																
常勤監査役	飯田政治																
監査役	古畑克巳																
監査役	若松康博																

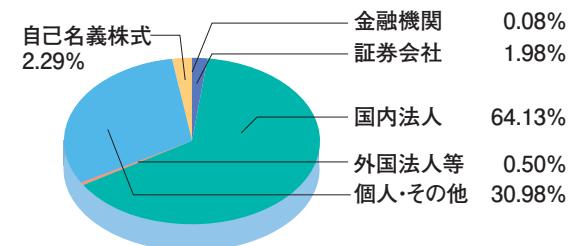
子会社	SteelEye Technology, Inc. (California USA)
	株式会社グルージェント (東京都港区)

株式の状況

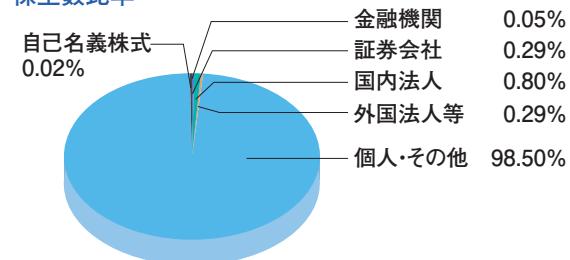
発行可能株式総数	150,000株
発行済株式総数	88,744株 ※自己株式2,040株を含む
株主数	3,342名

●所有者別株式分布状況

株式数比率



株主数比率



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人	その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告の方法	■住所変更等のお申出先について 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。 ■未払配当金の支払について 株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。 電子公告とします。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場取引所 コード番号	東証マザーズ 3744